

議員と話す出前トーク報告書

開催日時	令和7年5月10日(土) 10時00分~12時00分	
相手方	NPO 法人フードバンク松阪	
開催場所	松阪市岡山町 83-2 フードバンク 手島禮子宅	
出席議員	広報広聴委員 ① 沖 和哉 _____ ② 市野 幸男 _____ ③ 楠谷さゆり _____ ④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____	
	司会進行者	沖 和哉
	報告者	楠谷さゆり
	記録者	楠谷さゆり
参加人数	6名	
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。	
報告者の所感	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 中島 清晴 様

令和 7 年 5 月 16 日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

報告者 楠谷さゆり _____

意見交換

【テーマ】生活困窮者支援

【意見等】

- ・生活保護をもらっているのにというバッシングをしないでほしい。年金だけではやっていけない実情がある。
- ・企業戦士として働きづめだったのに、どこかで歯車が狂ってゴミの中で亡くなった人もいる。
- ・市長の100歳訪問ではなく、80~90代の人たちの年に1回でもいいのでお金を渡して小旅行をさせてあげてほしい。
- ・市からの災害備蓄品をローテーションしたら回してほしい。
- ・市役所等でフードドライブをやってくれないのはなぜか。市の職員だけでも集めてほしい。
- ・福祉の心を大切にして、「行きたいまち」より「住みたいまち」に。

【課題・問題点】

- ・企業も不況下で生産調整を厳しくするようになって、余剰品が少なくなった。
- ・市の部署が縦割りになっていて、部署と部署をつなぐことが機能していない。
- ・「福祉まるごと相談室」は弱者にうまく機能していない。
- ・日々困っている人がこんなにいることは、良いまちなのか疑問である。
- ・中央病院は救急車で運ばれて入院しなかったら、全員7,700円の支払いを求められる。
- ・社協の食料品支給は生涯で3回のみであるのは、理にかなってない。
- ・セカンドハーベスト名古屋の松阪支所とは妙な存在である。

【解決案】

- ・支援物資の獲得が至急課題である。
- ・災害用備蓄品や企業の廃棄食品を入手する方法を知りたい。
- ・
- ・
- ・

【主な質疑応答・意見等】

問 理想像はどんな社会か。

答 フードバンクがなくなってもよい社会。

問 フードバンクを始めたきっかけは。

答 2018年12月に恵方巻きが大量に余った事件で、始めることを決意した。食料品が必要な人がいる一方で、フードロスが多く出ている社会をなんとかしたいと思った。

問 議員に望むことは。

答 困っている庶民と寝食を共にしてから議員バッジをつけてほしい。市や社協に相談するのは勇気が要る。「言えない人たち」を代弁する議員であってほしい。

報告者所感

○手島代表からは何度も話を聞いているので理解しているつもりであったが、改めて生活困窮者の現状を聞いて、経済格差の広がりを感じた。

○支援物資獲得のためには、市も協力すべきであることは議会も訴えているが、真剣に検討してほしい。企業と協定を結ぶなどの方策も考えるべき。

○名古屋市が訪問介護サービスの報酬引き上げを決定した。国が報酬引き下げをする一方で名古屋市の事業は特筆に当たるが、松阪市の予算規模で同様のことができるかは疑問。

議員と話す出前トークの様子

